

世界遺産アカデミー認定講師 File No.36

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当てて、お話を伺います。第36回目は、埼玉県狭山市の賛助会員の関口和信(せきぐち・かずのぶ)さんです。関口さんは、狭山市内で小学校PTAや教職員向けのセミナーをご講演された他、入間市や所沢市の生涯学習ボランティア講師としても活動され、今年12月には「いまま 生涯学習フィスティバル」での講座も控え、腹話術と世界遺産のコラボ講演企画も進めていらっしゃいます。今回は、そんな関口さんに、世界遺産の旅の思い出と普及活動への想いを語っていただきました。

——雄大な峰々に憧れて

初めての海外への旅立ちは、世界遺産条約設立の2年後、1974年で渡り鳥運動(ワンダーフォーゲル)が盛んな時代。第1回冬季オリンピック(1924年)の開催地フランス・シャモニーを訪れ、ロジェール・キャンプ場にテントを張り、Mt.モンブラン、Mt.モンテローザに登り、ツェルマットなどへ。トーマス・クックの時刻表を片手に、山小屋とユースホステル、公園やレマン湖畔での野宿も体験しました。当時は世界遺産としてではなく、登山趣味からの冒険でした。最初に出会った世界遺産は、シャモニー訪問から24年後、1998年の英国です。ロンドン・ヒースロー空港からオックスフォードまで電車で向かい、ボートン・ロッジ・ホテルを拠点

にレンタカーを駆使して、妻と娘との家族3人で巡りました。ロンドン市内では、ウィリアムI世が戴冠式を行ったウェストミンスター・アビーを訪れ、ロンドン塔は散歩がてら中を覗き、バッキンガム宮殿、大英博物館なども観光しました。ボートン・オン・ザ・ウォーター、コッツォルズ、チッピン・カムデンにも足を延ばして田園風景にどっぷり浸り、エイボン川畔の小さな町、ストラトフォード・アポン・エイヴォンでは文豪シェイクスピアの生家も訪れました。この時も世界遺産を旅行する認識はなく、日本でもあまり知られていなかった世界遺産だと、後で知りました。

2002年の夏には、スイス・ベルナーオーバーランドを、妻とふたりで旅行しました。『ユングフラウアレッチュのスイス・アルプス』は素晴らしい世界遺産で



アイガー (2002年8月)

した。グリンデルワルド駅からフィルスト・ロープウェイ駅までは徒歩20分程度で、ロープウェイで頂上まで到れるので、高齢者や児童、ベビーカーを使う家族にも優しい道程です。アイガーを臨みながら、高山



キリマンジャロ登山証明書の授与式 (2009年9月)

植物のアルパイン・ムーン・デイジー(白菊)、スプリング・ゲンチアン(リンドウ)などを愛でるバッファアルプ湖までの散歩は、花好きの方には最高のルートです。また、「Top Of Europe、3571M」の

ユングフラウヨッホへと登山電車で上り、ヨーロッパ最大のアレッチュ氷河を堪能。帰路はアイガー・グレッツチャー駅で途中下車し、アイガー北壁の氷河を眺めつつ、牛が草を食む牧歌的な光景を楽しみました。クライネ・シャイディック駅を経て、マンテマ(撫子科)を横目にグリンデルワルドへと続く雄大なパノラマは、爽快です。

また、タンザニア連合共和国でアフリカ大陸の最高峰Mt.キリマンジャロを擁する『キリマンジャロ国立公園』には、注目しています。かつてドイツ皇帝ヴィルヘルムI世に割譲され、ドイツ人地理学者ハンス・マイヤーが1889年に初登山を果たした120年後の2009年に、僕ら兄弟も登山者の仲間入りをしました。レープマン氷河は溶けて頂上には既に無く、南氷原

に面影が残るばかりです。Mt.キリマンジャロの氷河は確実に減少しています。タンザニア政府は観光客を増やす政策のひとつとして、2019年7月にケーブルカーの設置計画を発表しました。年間50,000人もの観光客が見込まれ、山麓モシの町も賑やかになることでしょう。しかし、就業形態や環境破壊などへの波紋も懸念されます。

——世界遺産活動に繋がっている、世界遺産以外の活動

世界遺産の勉強を始めたきっかけは、「旅行地理検定」で“世界遺産”が出現されたことでした。66歳の時に「世

界遺産検定」2級に合格。1級には2回目にギリギリで合格。マイスターも2回目ではなんとか到達し、その後の人生に大きな影響を受けることになりました。「WHA認定講師研修」は申し込むか否か悩み、この歳で講師の道に進んでなにができるのか、と繰り返し考えました。

答えが見え始めたのは、娘の母校「入間川東小学校」でのボランティア活動を通してです。朝の登校時、学童たちの交通安全を見守っていました。この活動で当時の校長先生と繋がりができ、昨年は学校応援団員(PTA保護者・地域住民)による「本の読み聞かせボランティア」にも申し込みました。自分で選んだ絵本を30余名の学童を対象に10分程、ほぼ毎週行うもので、声の出し方や間の取り方などの勉強にもなっています。ま

た、園芸ボランティアにも参加して、草むしりや花植え、田植えに稲刈りを楽しんで、入間川東小学校から市民コーディネーターも依頼されました。これらの事柄が、2019年5月に開催した入間川小学校PTAの方々へのセミナーや、狭山市立小学校教職員向けの世界遺産講演会の開催、世界遺産クラブでの会員発表へと繋がりました。

WHA研究員の方を狭山市に招致することが、今後の夢です。狭山市を軸に、世界遺産に興味がある、知りたい、学びを共有したい方々に、世界遺産の楽しさをお伝えしていきたいです。そして、「知的好奇心と若干の冒険心が自己研鑽の源」を座右の銘に、世界遺産の大切さの学びを通じて、日本の文化を再認識し、異文化の多様性、未知なる自然との遭遇を謳



キリマンジャロの南氷原 (2009年9月)

歌しています。「無理も背伸びもしない、自分にできることを、できる時に」を心がけて、「まちの世界遺産先生」を目指したいと思います。